

Title	海外投資政策と資本予算モデル
Sub Title	
Author	滝川弘道(Takikawa, Hiromichi) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0091">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0091</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 滝川 弘道

主査 伏見 多美雄 教授

副査 小林 規威 教授

所属ゼミナール 伏見 多美雄 研

柳原 一夫 助教授

嶋口 充輝 助教授

## 「海外投資政策と資本予算モデル」

この論文の目的は、製造業を対象として海外投資の資本予算モデルについて文献研究を行ない、その実状と各種の技法について調べると共に、実用的で大局を見失わないシステムを研究することにある。

第一章では、Bavishi 論文から米国の多国籍企業(MNC)についての調査結果を研究し、海外投資の意思決定に考慮される諸要因や各種経営科学技法の利用状況などについて考察する。

第二章では、海外投資計画および多目標資本予算についての文献研究を行なう。Stobaugh 論文から国際投資環境分析の4通りのアプローチを調べ、Shapiro 論文からキャッシュフローを主体として各種要因を織り込んでいく(割引率を操作しない)方式を研究する。そしてLee 論文から多目標計画法を用いての資本予算モデルを調べる。

第三章では、上述の文献研究を基にして海外投資の資本予算のあり方について私自身の考え方をまとめる。具体的には、リスク変数の整理、キャッシュフロー技法の応用、各種技法の評価、日本特有の経営風土—日本企業にとっての経営目標の整理、意思決定プロセスの分析などを含める。

第四章では、前章の考え方を具体的したモデルを提示する。まず海外投資の評価のためのフレームワークを示し、続いて意思決定プロセスを考慮してのシミュレーションモデルを研究、最後に多目標での海外投資の意思決定モデルへの考察を行なう。